

(社) 日本地すべり学会関東支部

2011 年 ニューズレター

(社) 日本地すべり学会関東支部 平成 23 年度第 2 回現地検討会開催について

平成 23 年度第 2 回現地検討会は、以下のとおり実施した。

日 時 : 平成 23 年 9 月 22 日 (木) ~ 23 日 (金)

場 所 : 福島県白河市周辺

参加人数 : 20 名

東北支部の協力を得て、3 月 11 日の東北地方太平洋沖大地震により福島県白河市とその周辺の火山性堆積地域で発生した地すべり災害を調査した。

1) 1 日目

福島県県南建設事務所の会議室において、落合支部長および県南建設事務所の鈴木事業部長の挨拶の後、河川砂防課の鈴木主査より、葉ノ平地区の調査結果の概要について説明を受けた。無降雨時には水位が基盤内にあるが、降雨時には 20m も水位が上昇する孔がみら



れるなどの地下水位調査結果も示された。斜面上部ブロックと下部ブロックの運動の関連性や、同じ地質構造でありながら地すべりが発生した A ブロックと発生しなかった B ブロックとの違いなど、活発な質疑応答を行った。また、BV-2 と BV-4 のボーリングコアを直接観察しながら、すべり面である降下軽石層底面と他層準のローム層の違いなどについて意見交換した。

その後、葉ノ木平地区に移動し、日本大学の梅村先生の案内のもと地すべり地内をくまなく調査した。現地はほとんど手が加わっておらず災害直後の地すべり状況が保存された状態であった。すべり面露頭を観察しながら、最後は地すべりが発生しなかった B ブロックを見て回った。

2) 2 日目

午前 8 時 30 分に新白河駅に集合し、バスに乗って、当日の調査対象である矢部屋地区に向かった。県道から 1 時間弱の歩行で小汗をかきながら、現地にたどり着き、すべり面露頭や滑落崖、土砂の流動域など、小グループに別れ、調査を行った。移動も含めまるまる午前中を矢部屋地すべり調査に費やした後、昼食を挟んで、次の調査対象である北ノ入地区に向かった。北ノ入地区では、弘前大学の桧垣先生の河川技術開発調査グループ 7 名と合流し、葉ノ木平との共通性、違いなどを頭に描きながら共同で調査を行った。

北ノ入地すべり地区の調査の後、河川技術開発調査グループと別れ、関東支部現地検討会グループは次の調査地である、大小 2 つの地すべりブロックにより道路を塞いだ坂東地区と、連続した段

差を伴い側方流動し川をせき止めた子ハ清水第一地区の視察を行った。午後5時に新白河駅に戻り、自由解散となった。

謝辞

今回の現地検討会開催にあたり、福島県県南建設事務所、福島県県南農林事務所、白河市、矢吹町におかれては貴重な平面図、断面図、調査結果資料の提供をしていただいた他、災害地区への連絡、福島県県南建設事務所の地すべり災害の説明など、多大なる協力を受けた。また国土防災技術(株)福島支店によるボーリングコアの運搬と地質説明などの協力もいただいた。さらに梅村先生には、開催準備と当日の引率をしていただいた。ここに厚く御礼申し上げる。



福島県県南建設事務所会議室での葉ノ木平地すべりの説明会



葉ノ木平地区のボーリングコアの観察



葉の木平地区の現地調査



矢部屋地区の現地調査



北ノ入地区の現地調査



坂東地区の現地調査